
F A X 送付案内

平成27年12月11日

A 4 5 枚 (本状含む)

関係各位



鹿児島県農政部畜産課 家畜衛生係

鹿児島市鴨池新町10番1号
TEL:099-286-3226 FAX:099-286-5599
eikan@pref.kagoshima.lg.jp

野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された事例等について

平素よりお世話になっております。

鳥インフルエンザの情報提供がありましたのでお知らせします。

【国内の情報】

宮崎県で採取された野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。

糞便採取場所：宮崎県宮崎市（環境省調査）
糞便採日：平成27年11月25日
血清亜型：H5N3亜型（低病原性）

【海外の情報】

（台湾における発生）

11月に新たに4件の発生。

発生日：2015年1月以降（平成27年12月8日現在）

血清型：H5N2, H5N3, H5N8亜型（高病原性・低病原性）

発生状況：合計965件（農場，と畜場，係留所での確認）

（韓国における発生）

11月に新たに3件の発生。

発生日：2015年9月14日以降（平成27年11月25日現在）

発生状況：合計17件（件数のほとんどがサーベイランスでの発見）

【鳥インフルエンザに関する情報（農林水産省HP）

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>

鳥インフルエンザについては、世界各地で発生しており、冬鳥の飛来が本格化したこの時期にあつては、国内への侵入リスクは高い状況にあることから、引き続き、緊張感を持って、本病侵入防止対策に万全を期していただきますよう、よろしくお願い致します。

本病侵入防止対策

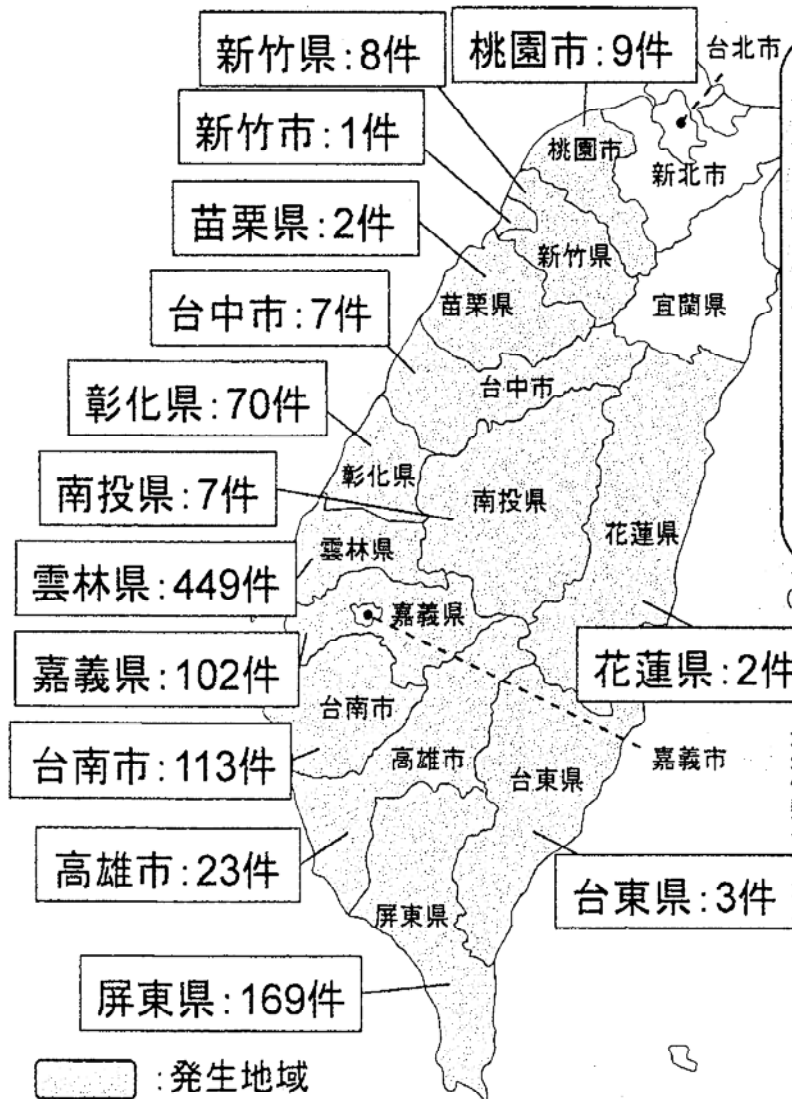
野鳥，ネズミ等の侵入防止対策，消毒の徹底（車，人）をはじめとし

た飼養衛生管理基準の遵守の徹底（特に次の事項について日頃から確認・改善）また、異常を認めた際の早期発見早期通報の徹底についてもご指導いただくようお願いいたします。

- 1 鶏舎の穴をふさぐ（野生動物・ネズミ等の侵入防止）
- 2 防鳥ネットの補修（隙間のないように）
- 3 飲み水対策（水道水でない場合は消毒実施）
- 4 鶏舎専用の長靴、衣服の着用（鶏舎にウイルスを持ち込まない）
- 5 消毒の実施（鶏舎毎の踏込消毒槽、車両消毒、手指の消毒、鶏舎周囲への石灰の散布）

台湾における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況

(2015年1月～)



合計: 965件* (農場・処理場・係留場)

血清型
 ・H5N2* ・H5N2/H5N8混合感染
 ・H5N3 ・H5N2/H5N3混合感染
 ・H5N8 ・H5**

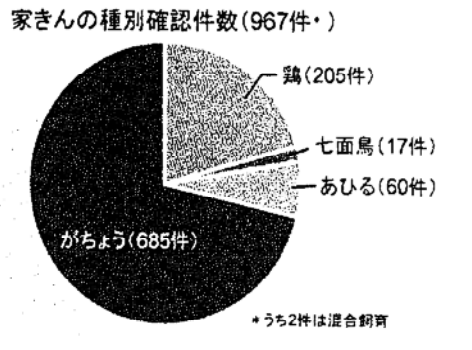
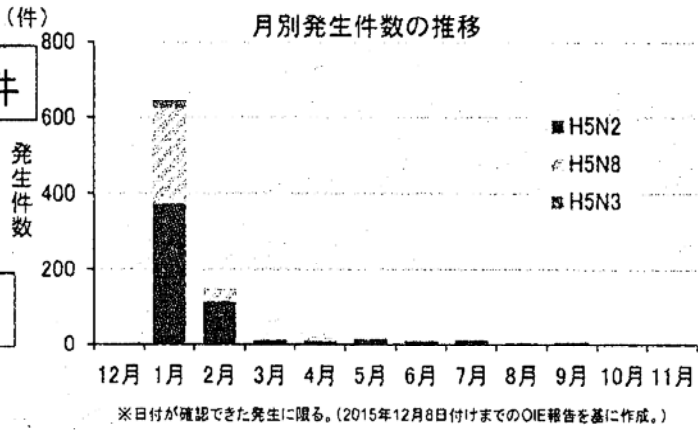
※発生件数の血清型別の内訳は未確定。
 うち少なくとも22件は低病原性鳥インフルエンザの発生。

*過去に台湾で検出されたウイルスによる感染及び過去に台湾で検出されたウイルスとの混合感染を含む
 ** N亜型・病原性未確定

殺処分完了: 964件 (509万8,096羽)

○野鳥における検出

確定日	場所	亜型	鳥種
4/4	彰化県北斗鎮	H5N2	スズメ (2羽)
3/16	高雄市高屏溪	H5	不明
3/9	高雄市茄苳湿地	H7N9 (低)	カモ
3/1	台南市安南区	H5	クロツラヘラサギ
2/1	台南市七股区	H5	クロツラヘラサギ
1/30	台東県台東市	H5N2	ゴイサギ
1/19	屏東県長治郷	H5	ツグミ
1/18	苗栗県竹南鎮	H5N3	シロガシラ (3羽)



台湾における種別飼養状況

	鶏	あひる	がちょう
飼養戸数	5,798	2,816	971
飼養羽数(万羽)	9,213	962	177

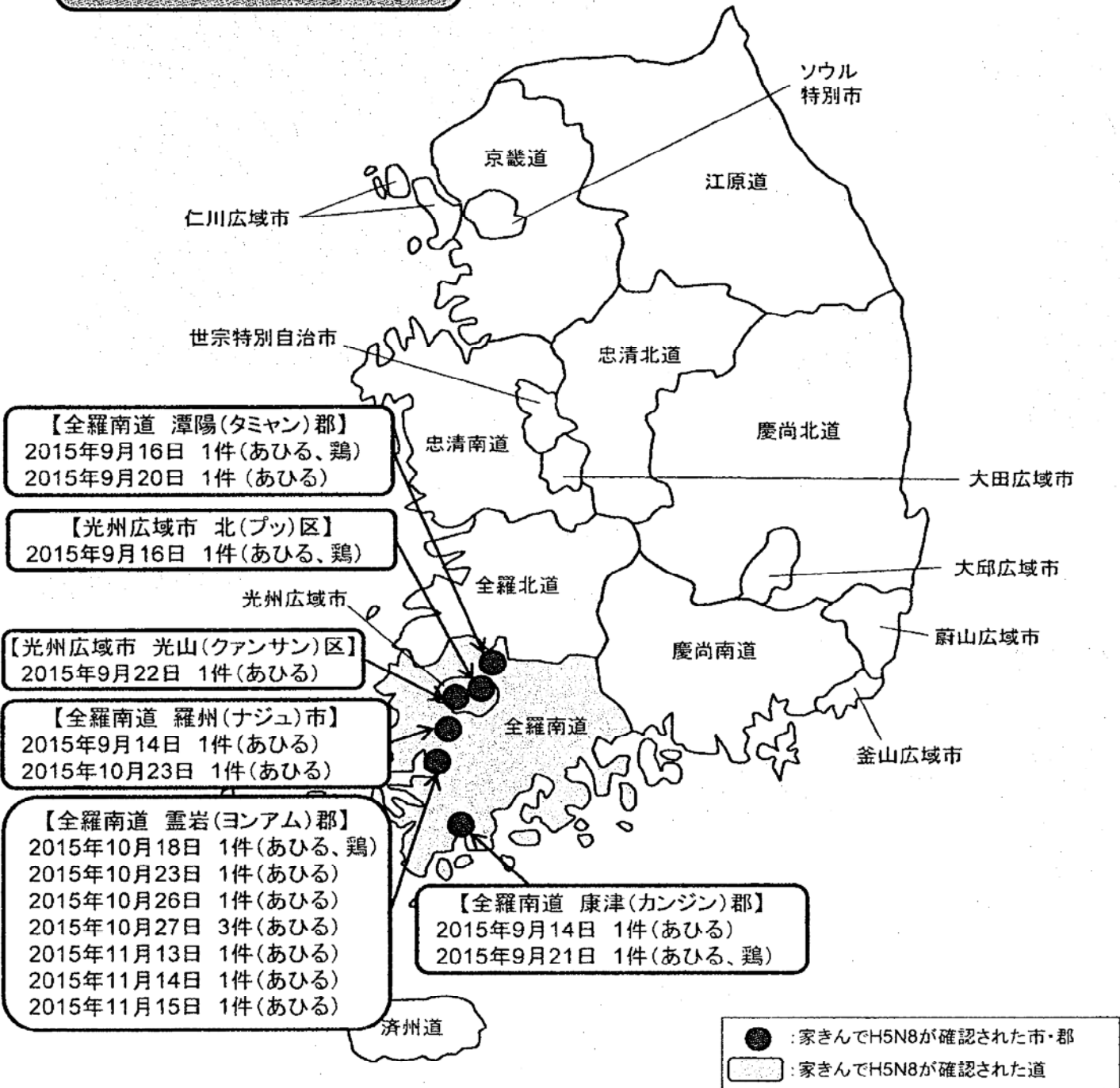
※2015年1月15日の台湾当局公表資料を基に作成

注: ・本図のH5N2及びH5N3亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスは、過去に台湾で確認されたウイルスと異なり、これらウイルスのH5遺伝子は韓国のH5N8亜型ウイルスのH5遺伝子と近縁。
 ・以下については、本図に記載していない。
 ①1月6日屏東県の採卵鶏農場で発生した従来型(1件)。
 ②発生農場の半径1km以内の家きん農場におけるサーベイランスの結果、63農場でH5亜型のウイルスを検出。

出典:台湾行政院農業委員会動植物防疫検疫局、OIE
2015年12月8日18時現在

韓国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N8亜型) の発生状況 (2015年9月～)

**家きんでの確認件数:
17件(6市・郡・区)**

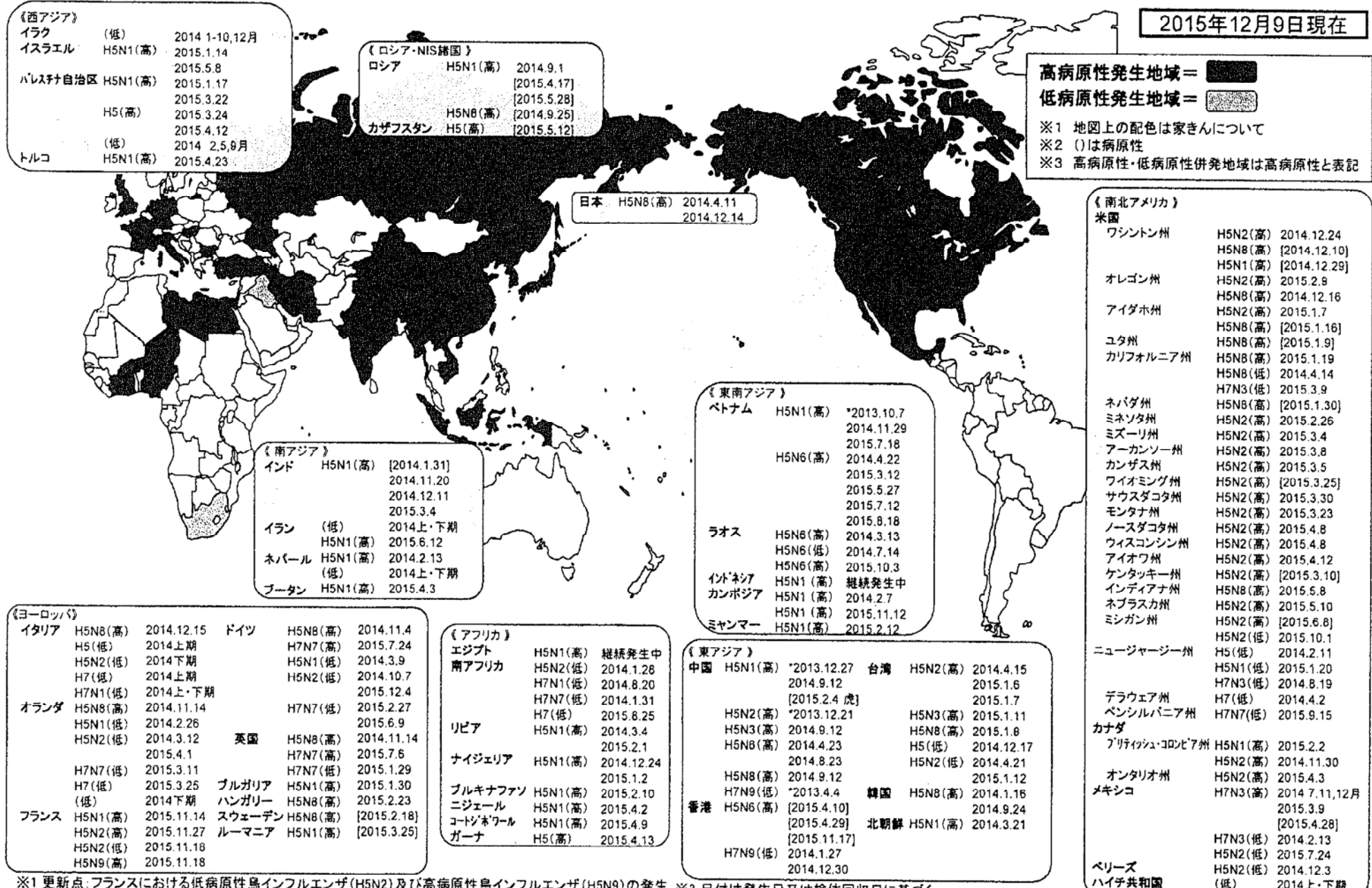


● : 家きんでH5N8が確認された市・郡
 ■ : 家きんでH5N8が確認された道

※ 日付は申告日
 ※ 出典: OIE、韓国農林畜産食品部 等

家きんの高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2014年以降)

2015年12月9日現在



※1 更新点: フランスにおける低病原性鳥インフルエンザ(H5N2)及び高病原性鳥インフルエンザ(H5N9)の発生 ※3 日付は発生日又は検体回収日に基づく
 ※2 本図は発生の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない ※4 *は初発が2013年以前であるが2014年以降も発生のあるものを示す ※5 []は野鳥における発生を示す 出典: OIE WAHID等